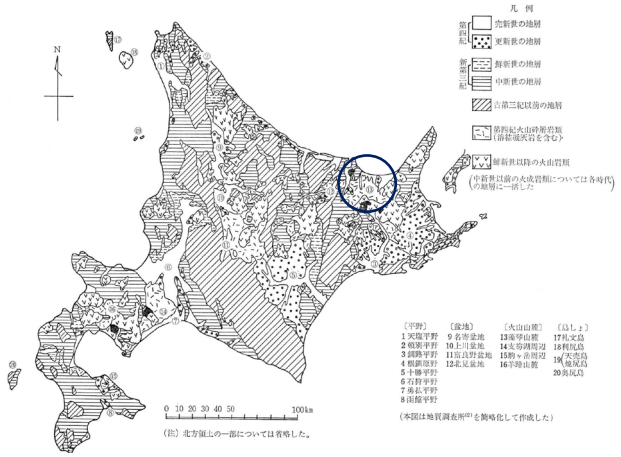
13.藻琴山麓

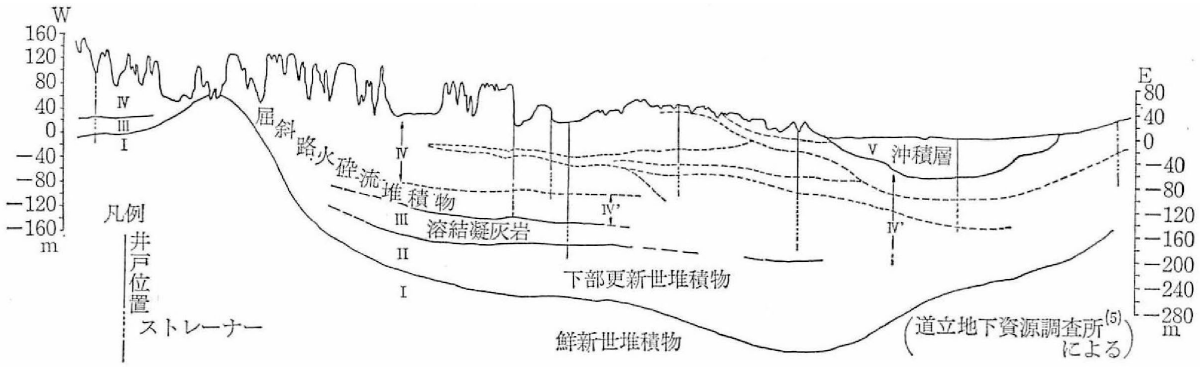


地形・地質

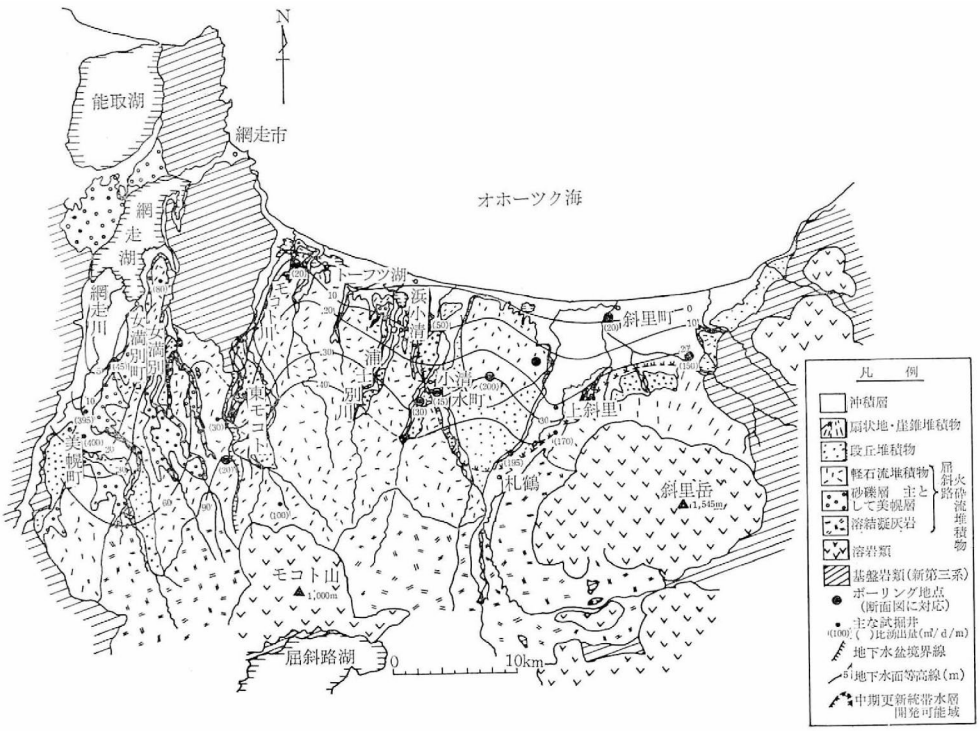
藻琴山の北麓には，広大な火山山麓が広がり，その末端はオホーツク海沿岸にまで達します。地形は緩傾斜をもつ火山砕屑岩台地からなり、藻琴川，止別川などの下流には，小規模な河岸段丘が数段発途しています。地質は屈斜路火山にその起源をもつ火山砕屑流の堆積物です。

地下水

藻琴山麓の地下水盆は，女満別ー美幌低地帯地下水区と藻琴山北麓地下水区に分けることができます。前者の主要帯水層は中期更新世の砂礫層で，後者はより新しい更新世の屈斜路火砕流堆積物です。



藻琴山麓水文地質断面図



藻琴山麓の水文地質図

藻琴山麓の水文地質層序表

時代	地層および火山噴出物名	岩相・岩質	層厚（m）	水文地質的特色			その他
				帯水層厚	水質	帯水層区分*1)とその特徴	
完新世	沖積層 海成堆積物 現河床堆積物 砂丘 摩周火山系噴出物	粘土，軽石，砂礫 泥炭 砂丘砂 降下軽石，火山灰	40～50 m 2 m±	10～20 m	海水混入型 Cl 多し	帯水層群 V 不圧地下水を賦存させる浅部の地層 沿岸部では海水の浸入をうけやすい	摩周カルデラ形成
更新世	段丘堆積物 新期屈斜路火砕流堆積物 軽石流堆積物（I） 美幌層 中期屈斜路火砕流堆積物 軽石流堆積物(II)～(IV) 古期屈斜路火砕流堆積物 軽石流堆積物(V)～(VIII)	粘土，砂礫 降下軽石 砂礫，軽石質砂 降下軽石，軽石質砂礫 降下軽石，軽石質砂礫	3～5 m 1～15 m 1～20 m ～70 m 以上 ～50 m 以上	3～5 m 1～15 m 1～20 m 70 m 以上 ～50 m 以上	平野東部の 50 m 以深の地下水は COD，色度大	帯水層群 IV 30～120 m³/d/m の比湧出量をもつ中規模の帯水層採水深度は 50～100 m	海進 屈斜路カルデラ形成
	古梅溶結凝灰岩	石英安山岩質	～40 m 以上	～40 m 以上		帯水層群 III 小規模な裂か水系帯水層，ふ圧層の機能も果たす	
	中期更新統*2)	シルト，砂礫	90 m 以上	20 m 以上		帯水層群 II 被圧帯水層として有力だが未開発，深度 200 m 以上	
新第三紀～	鮮新統	砂岩，礫岩				帯水層群 I 小規模な被圧帯水層	
	先鮮新統	泥岩，頁岩，砂岩					

（注） ＊1） 道立地下資源調査所(5)による。
＊2） 水理地質図「斜里」では下部更新統とされている。文献（5）参照

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）